

県民の友

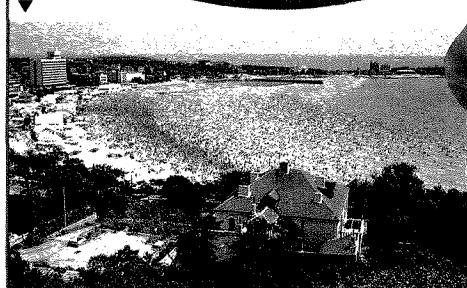
発行/和歌山県 知事公室 広報公聴課 TEL640 和歌山市小松原通1の1 ☎(0734)324111 No.584

昭和62年
4月号

伝統的な祭礼の舞踊

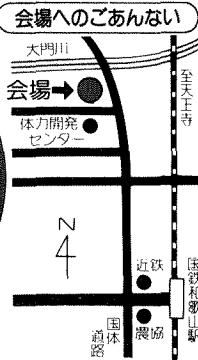


▲ 济寧市にある墓石群の石刻



中国製品即売します…… 物産展 1日～8日

美術工芸品、唐木家具、民芸雑貨、食品類、
アクセサリー、掛け軸、織維類。
(実演コーナー) 刺しゅう、印鑑てん刻。



和歌山市小松原通一一一 県庁産
地振興課内 ☎(0734)331-
4111 内線 三七一

連絡先
山東省フェア'87実行委員会事
務局

ジエトロと和歌山税関の業務を
紹介。貿易、通関についての相談
をお受けします。

貿易・税関コーナー

6日・7日

ご相談ください……
貿易セミナー

耳より情報……
2日

2000年の伝統を誇る山東省武術
団が鍛え上げた技の数々を披露し
ます。1日2～3回公演。

貿易しませんか……
投資貿易商談会 6日・7日
商談参加ご希望の方は事務局ま
でご連絡ください。

一般会計予算三、四四一億余万円、「売上税導入に反対する意見書」等を可決



一年度補正予算案二十三件、その他条例改正案など二十二件の計六十八議案、知事専決処分報告一件が提案され、また、前会から継続審査となつていて昭和六十年度歳入歳出決算の認定が採決の結果、それぞれ可決、認定されました。

なお、条例改正案の中には、県の機構を一部改編し、商工労働部、農林水産部等を設ける部設置条例の一部改正案や、半島振興対策実施地域や低開発地域工業開発地区における県税の特別措置に関する条例の一部改正案が含まれています。

一般質問には、十二人の議員が質問に立ち、売上税問題等県政全般にわたつて活発な論議が交わされました。その主な質問項目は次のとおりです。

昭和六十二年度予算編成と知事の基本姿勢、第四次長期総合計画、売上税及び売上譲与税、県経済の活性化と円高不況対策、雇用対策、住金の減産合理化問題、半島振興法の展望、同和対策及び調整区域内の農地転用にかかる「工セ同和」の問題、閑空建設及び運用段階における県内企業の参画、和歌山市河北地区の開発、原子力発電所立地問題、核廃絶署名と非核自治体宣言、土木行政と道路整備、

昭和六十二年二月定例会は、二月十八日から三月十日までの二十日間にわたりて開催されました。冒頭の二月十八日、政府の売上税導入問題に伴う昭和六十二年度当初予算への売上譲与税計上をめぐり、特に質疑が行われ、県当局からは、「当初予算に計上されてい

る売上譲与税は、あくまでも歳入の見積りとして国の地方財政計画に沿つて技術的に計上したものである。従つて売上税に対する賛否の意思表示をしているものではない」との見解が示されました。

二月定例会には、昭和六十二年度当初予算案二十三件、昭和六十

農林水産行政、白浜空港及び熊野コムユーター空港、過疎対策、保健所行政の取り組み、婦人施策の推進、和歌山大学の統合移転と跡地利用及び学部の増設、私立大学、

の誘致推進等の教育問題、国際ヨットハーバー構想と和歌山下津海湾の整備、障害者対策、精神障害者対策とガソセンターの設立、紀南の浮上対策、二川ダム対策等。なお、二月定例会では「売上税導入に反対する意見書」と「農畜産物の輸入自由化、枠拡大阻止についての意見書」(別記)が可決され、それぞれ政府の関係機関に送付されました。

売上税導入に反対する意見書

わが国経済は、急激な円高等の影響により厳しい状況にあり、内需の拡大、国民生活の安定が強く求められているところである。

今回の税制改革は、売上税の導入により、国民生活にかかわるあらゆる分野を対象とし、生産から流通、消費の各段階で課税することになり、現在の円高に伴う経済不況、特に中小企業、零細企業を多くかかえる本県経済に多大の影響をもたらすものであり、物価の上昇、個人消費の落ち込み、煩雑な納税事務などにより、県民生活を大きく圧迫することは必至である。

農産物の輸入自由化、枠拡大阻止についての意見書

本県の農業をとりまく状況は、生産の抑制、農産物価格の低迷及び生産資材価格の上昇等極めて厳しい中で、諸外国からのオレンジ果汁及び牛肉等農畜産物の市場開放要求は、果樹、畜産農家に深刻な不安を与えていた。よって、政府におかれても、こうした厳しい実情を十分認識され、農畜産物の輸入自由化はもとより、輸入枠をこれ以上拡大しないよう強く要望する。上記のとおり、地方自治法第九十九条第二項の規定により意見書を提出する。

また、税制改革は、税制の基本理念である税負担の公平を確保するとともに、経済に活力を与えるよりも広く国民に理解されるものでなければならぬ。

以上の観点から、今回の売上税導入に反対せざるを得ない。

よって、政府に対し、税制改革の撤回を含めた再検討を求めるものである。

上記のとおり、地方自治法第九十九条第二項の規定により意見書を提出する。

「ふるさとわかやま」の建設と 不況対策に重点

昭和六十一年度当初予算が決定

先の二月定例県議会で昭和六十一年度の県の当初予算が議決されました。

一般会計三、四四一億七九三六万円、特別会計六〇一億二六一万千円、総額四、〇四二億八、一九七万円で、一般会計は前年度に比べて三・七%の伸びとなり、予算編成の目安となる国の地方財政計画の二・九%を上回る積極型の予算となりました。

今年は第四次県長期総合計画、紀伊半島浮揚の根幹をなす半島振興計画がスタートし、関西国際空港が着工されるなど、まさに「実行の年」です。

一方、本県の経済は素材型産業の不振、円高の影響、農産物の自由化などにより厳しい状況にあります。予算編成にあたっては県税収入や地方交付税の伸び悩み、国庫補助金カットなどの大変厳しい財政状況のなかで、県債、基金の有効な活用を図るとともに行政改革を推進し、知恵をしばらく工夫を凝らして財源を生み出しました。

行政改革では県職員の定員を三十四人減らし（昭和五十六年以降二百人減）、投資的事業を中心に予算を重点的に配分しました。（前年度比伸び率八・四%）を充

てています。

同時に民間活力を導入し、工業試験場を中心にして、学・官が一体

となつて技術開発を進め地場産業の活性化を図るほか、「ふれ愛紀州路」大型観光キャンペーン（総事業費十二億七千万円）、昭和六十三年度に本県開催が決定した日本文化デザイン会議に向けての準備委員会発足、水産試験場で浮魚礁の実験設置などを行います。

当面の不況の打破のため、中小企業対策臨時措置法による諸施策に加えて県独自の低利融資制度として中小企業不況対策資金制度を創設し、県下全域にわたる地場産業の振興を行います。

また、健康、福祉、教育、文化の各分野を中心として二十一世紀を目指した新しい「ふるさとわかやま」の建設を推進します。

歳	出	昭和62年度予算額
総務費	221億50百万円	
民生費	317億51百万円	
衛生費	78億65百万円	
農林水産業費	370億33百万円	
商工費	214億75百万円	
土木費	740億95百万円	
警察費	180億10百万円	
教育費	932億24百万円	
公債費	274億9百万円	
その他		
議会費	10億87百万円	
労働費	21億41百万円	
災害復旧費	53億13百万円	
諸支出金	25億26百万円	
予備費	1億円	
歳出合計	3441億79百万円	

その他（10,300円）

（16,500円）

（20,300円）

（34,000円）

（68,000円）

（85,500円）

今年完成・着手する事業



同和対策事業と地方交付税
市町村が、同和対策事業を実施する場合には、原則として国庫補助金と地方債がその財源となりま
す。

つまり、国庫補助率三分の二の同和対策事業の場合、残りの三分の一の地方負担を地方債で財源措置すると、その元利償還金の五分の四が普通交付税で交付されるため、市町村の最終負担割合は $\frac{1}{3} \times \frac{1}{4} = \frac{1}{12}$ で、約六・七パーセントとなります。さらに、市町村が単独で行う事業など普通交付税で財源措置されないものについても、特別交付税により市町村の財政負担の軽減が図られています。

昭和六十一年度で措置された特別交付税は、約二十九億七千五百円です。

※62年度当初予算のなかからいくつか選んで紹介しています。

- 今年完成する事業
 - 今年着手する事業

21世紀を目指した施策を実行

今年度実施される事業のなかから、特に将来に向け行われる主な事業をご紹介します。(10万円未満四捨五入)

健康

①県立医大の整備

統合移転基本構想等の策定……1億円

現病院の改修……3億3,330万円

高度診療備品の充実……2億5,600万円

②手術後の重症患者、臓器移植患者等を集中的に監視し治療を行う

「高度集中治療センター」を県立医大内に設置……1億1,090万円

③検診率アップ対策

検診車購入……2,720万円

民間ヘリコプター会社との契約により救急患者を救命救急センターなどへ運ぶ救急ヘリコプターシステムの導入……530万円

じんパンク・アイバンク設立出資金等……1,050万円

熊野本宮温泉郷を国民保健温泉地として整備……2,000万円

福祉

①老人関係施設、精神薄弱者・身体障害者関係施設など社会福祉施設の充実……4億6,830万円

②在宅福祉の充実

在宅で寝たきりのお年寄りに日常動作訓練、入浴サービス等を実施するデイ・サービスの開始……1,040万円

お年寄りに必要な情報を幅広く提供するシルバー110番の開設……3,380万円

③ボランティアの育成……760万円

④障害者の住みよいまちづくり……1,000万円

教育

①高校の体育館や実験実習棟などを整備(8校)……28億7,070万円

②きのかわ養護学校の整備と新設養護学校の調査……3億9,160万円

③近畿大学の誘致……280万円

④和歌山高校に情報科学科を新設……5,020万円

⑤紀北農芸高校の開校……5億4,150万円

⑥郷土和歌山県についての教材を作成……140万円

文化・スポーツ

①天皇陛下御在位60年記念公園の整備……15億5,900万円

②美術館等を建設するための用地調査と基本構想の作成……3,500万円

③県立体育馆の整備……6,620万円

④埋蔵文化財や文化財建造物の調査、研究、修理、保存を行う

(財)県文化財センター(仮称)の設立……1,000万円

⑤旧名手本陣の保存、修理……420万円

交通・通信

①関西国際空港関連道路の整備(国道371号、泉佐野岩出線、泉大津粉河線、泉佐野打田線、岬加太港線、粉河加太線)……5億9,300万円

②第二阪和道路関連調査……1,500万円

③高速道路の紀南延長促進……450万円

④有料道路高野山道路の無料化……1,610万円

⑤南紀白浜空港のジェット化整備計画調査……4,900万円

⑥県庁と出先機関、50市町村、防災関係機関を結ぶ防災行政無線の設置……1億1,880万円

産業

①企業の誘致……4億5,520万円

②各種試験場のハイテク化……1億2,080万円

③高付加価値型農業の推進……1億810万円

④林業の活性化……4億7,690万円

⑤栽培漁業の推進……13億7,640万円

観光

①リゾートゾーン整備促進……3,410万円

②大型観光キャンペーン……9,000万円

③観光情報拠点としての「新王子」計画……1,000万円

④東海地域での誘客活動「ふれ愛紀州路サザンコール」……200万円

⑤大規模イベント調査……1,150万円

中小企業対策

①特定地域中小企業対策臨時措置法による施策

新分野進出等事業補助金……3,400万円

特別融資制度……融資枠30億円

②中小企業不況対策資金(特定地域外)……融資枠15億円

③中小企業向け県制度融資の金利を0.8%程度引き下げ

④関空関連中小企業下請受注支援……100万円

⑤中小企業経営活性化事業……100万円

⑥県郷土伝統工芸品産業振興……100万円

⑦阪路開拓支援事業……300万円

⑧商工会館の建設助成……9,000万円

雇用対策

①主婦に良質のパート情報を提供し気軽に相談してもらえるパートバンクを新設……700万円

②高等技能学校の充実……1億2,100万円

③離職者等への貸付制度の充実、融資枠の大幅アップ

④労働者信用基金協会へ出資……500万円

別交付税は
昭和六十一年度で措置された特
約二十九億七千五百
万円です。



花と緑で心豊かなくらしを 花と緑のフェスティバル開催



二月二十八日、三月一日の両日、和歌山市の県勤労福祉会館プラザホールで第一回花と緑のフェスティバルが開かれました。花きの品評会やフラワーデザイン教室、来場者への花束のプレゼント、花と植木の青空市などが行われ、会場は一面の花畠。甘い香りと色とりどりの花々が来場者を魅了した二日間でした。

(和歌山市)

有田川クリーン大作戦

「みんなの川だから、みんなできれいに」と、恒例のボランティアによる有田川清掃が2月28日に行われました。

吉備町内の有田川全域で展開されたこのクリーン作戦には子どもからお年寄りまで約1,200人が参加し、生え放題の堤防の草を刈り、散乱するゴミを拾うこと3時間。川は見違えるようにきれいになりました。作戦は大成果を収めました。

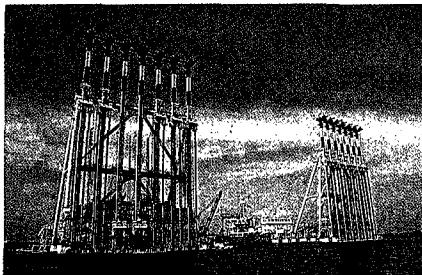
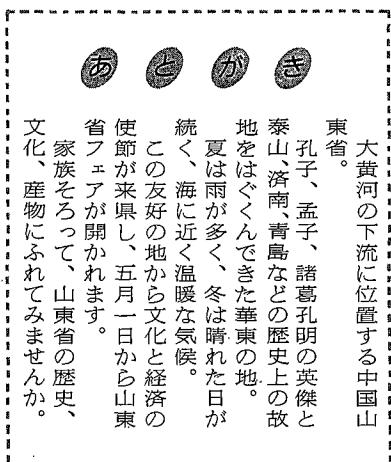
(吉備町)



長寿社会特集として、県下各地で活躍されている方々や、県の施策などを紹介しています。

できるだけ多くの人々にご覧いただきよう公共施設などに配布していますが、別に一部をご希望の方に配布できるよう用意していますので、送料として200円切手同封のうえ、県庁広報公聴課、広報班までお申し込みください。

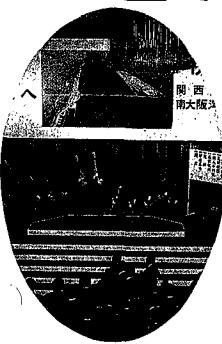
**第24号発行
グラフわかやまけん**



2月22日、大阪市内のホテルで関係者2,000人が集まり関西国際空港の起工式が盛大に開催され、和歌山県からも仮谷知事らが出席、新空港へ大きな期待を込めてくわ入れを行いました。

既に泉州沖では地盤改良工事も行われており、昭和68年3月には関西のそして和歌山県の大きな夢をのせて一番機が飛び立つ予定です。

(大阪市)



一人でコツコツ 丸太小屋完成



本宮町役場の隣に「まるたんぼう」と大書した丸太小屋が一軒。

本宮町で「ふるさと宅配便」などの村おこしを続けている鈴木末広さんが都会と田舎の子の交流の場として、2年8ヶ月をかけて手づくりした丸太小屋です。

約250本の間伐材を利用し、広さは43平方メートル、今は宅配便の事務所として使われていますが、将来は無料宿泊所として多くの人に利用してもらう予定です。

鈴木孫一
雜賀鉄砲衆の頭領

戦国時代、織田、根来と共に三大鉄砲集団の一つとして勇名をはせた雜賀一族の首領、雜賀孫市こと鈴木孫一は紀伊国海部郡雜賀荘(現在の和歌山市)の郷士。

鈴木佐太夫の子として生まれたとされています。元電元年(一五七〇年)織田信長と石山本願寺との間で始まった石山戦争に強力な鉄砲衆を率いて参戦、正確無比の射撃で織田勢を苦しめ天下に雜賀の名をとどろかせました。これが「雜賀を攻めれば石山は落ちる」と信長に雜賀攻めを決意させ、天正五年(一五七七年)十万の織田勢は紀州雜賀荘に攻め入りました。小雜賀川(現在の和歌川)沿いの攻防は烈戦をきわめ、川は血で染まつたといいます。しかし多勢に無勢、やむなく講和しましたが、その後も孫一らはたびたび反旗をひるがえし、信長なきあとも秀吉に反抗し水攻めで有名な、太田城(現在和歌山市太田)にたてこもるなります。しかしながら中央の権力を屈しませんでした。

このような孫一は後世の人々の人気を集め小説や講談によくとり上げられますが、その生没年や実像はほとんどはつきりしていません。しかし、今も和歌山市内には平井の屋敷跡や墓。雜賀、和歌浦には数々の城あとや氏神などが残り、孫一の活躍をしのばせてています。

シリーズ⑯